

ツガ *Tsuga sieboldii* Carr.

マツ科 Pinaceae

1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

樹皮は浅い割れ目が多数入り、やや縦長の多角形の鱗片としてはげ落ちる。

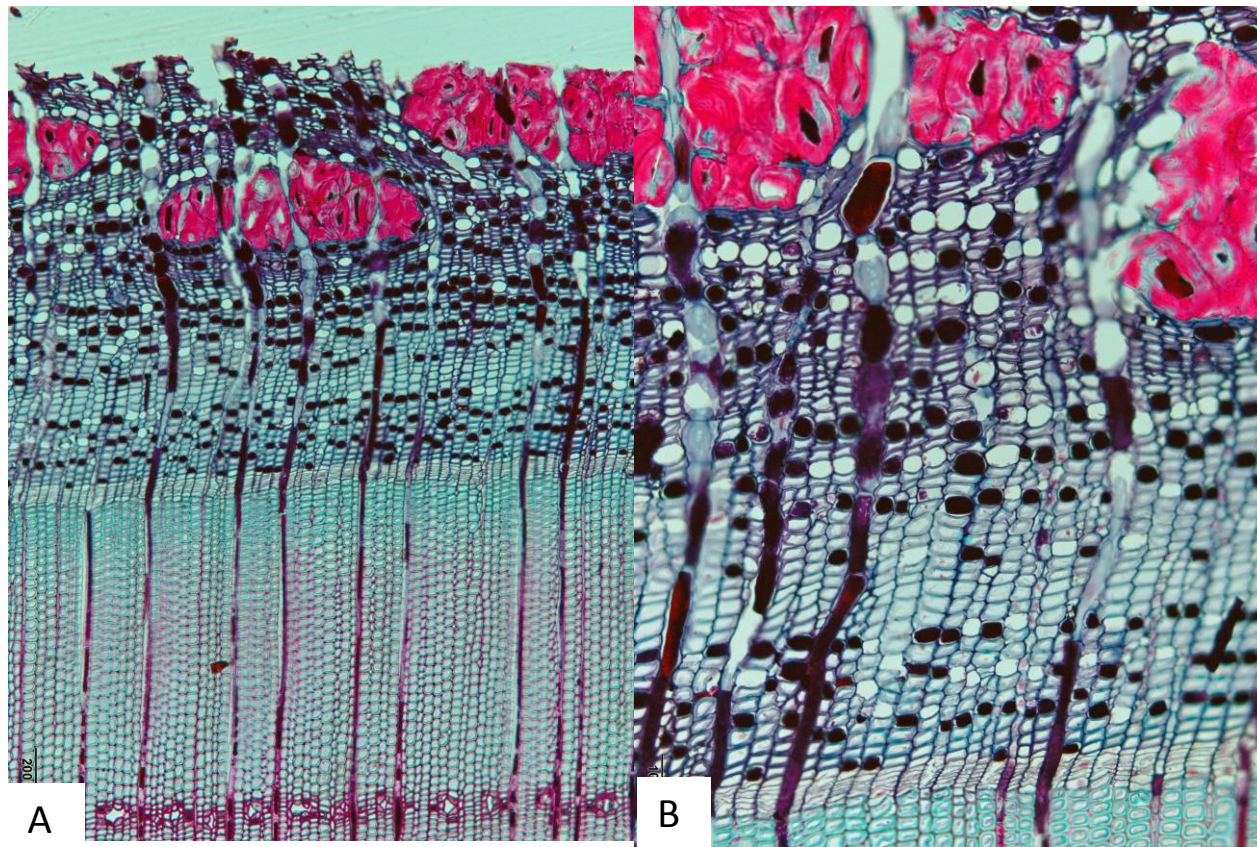
内樹皮の基本構造は篩細胞層の中にやや接線方向に並ぶ傾向がある柔細胞が混じる。

形成層の活動により組織が外に押し出されて行くと篩細胞層は押しつぶされるが、柔細胞は丸く膨らんでやや大きくなる。柔細胞と思われる細胞が再分化し、大きく膨らんだ薄壁の細胞内容物の無い細胞（「厚壁化しない厚壁異形細胞（?）」と仮称）と厚壁異形細胞の塊が出来る。

以上のようにツガの樹皮には繊維細胞が無いことから、編組製品の素材とはならないと考えられる。

3. 利用例：なし

4. 遺跡出土遺物：なし



A&B:内樹皮の横断面とその拡大. 画面中央に形成層帯があり、その下部は二次木部、上半分が二次篩部。二次篩部で黒紫色の細胞内容物があるのが柔細胞、細胞壁が青色で細胞内容物が無いのが篩細胞。柔細胞はやや接線方向に配列する傾向がある。肥大成長により組織が外側に押し出されて篩細胞が機能を失うと、周囲の柔細胞が再分化して、直径が他の細胞よりやや大きく断面が丸い薄壁の「厚壁化しない厚壁異形細胞(?)」と、赤色に染色された厚壁異形細胞の塊が出来てくる。樹皮の放射組織は単細胞幅。